TACパワーアップ大会2009を開催

TAC2年目、全国から105JAが集結

JA農協は1月24、25日、「TACパワーアップ大会2009」を東京都港区の品川プリンスホテルで開催しました。前回より150人近く上回る、約450人が参加しました。

地域農業の担い手に出向くJA担当者（「TAC」）を対象にだし、2回目の全国大会。全国統一基準に基づくTAC・JAの表彰、受賞者による事例発表、参加者による分科会の中から、表彰JAの役員・管理者によるトップ座談会を行いました。

来賓の日本農業法人協会の武井尚一理事会長は、「日本農業法人協会とJAグループとは浅いながらがある。全国の法人の懐に飛びこんで、『第2、第3の『武井農園』を作ればしてほしい』と、エールをいただきました。

JA全農の木村春理副会長は、「非常に厳しい時代であるからこそ、『農家の元に立ち返る』『JAの原点に立ち返る』『JAの活動が求められている』と挨拶。JA全農の出元一常務理事は、「担い手に出向き、信頼関係を構築して、担い手の声に応えていくことがJAの事業につながっていく。そのためにもTACが核となってJAグループの連携を強化しなくてはならない」と提起しました。

交流会の場では、JA全農の永田正利経営管理委員会長が「地域農業の担い手にJA必要だと感じてもらえるのがTACの活動です。誇りをもって胸を張って活動してください」と激励しました。

参加したTACから話、今年年度取り組んだ『2・64の取組事例をいただき、上下2冊の「取組報告事例集」として参加者に配布・共有しました。

【情報提供部門】 地域農業の担い手の夢や、JAへの要望を収集したTAC、JA

JA表彰	1位	青森県 JAつがる弘前
	2位	宮城県 JAみやぎ亜理
	3位	滋賀県 JAグリーン近江
TAC表彰	1位	青森県 JA青森
	2位	熊本県 JAやつしろ
	3位	福島県 JAふくしま

【情報収集部門】 JAおきなわ

JA表彰	1位	沖縄県 JAおきなわ
	2位	京都府 JA京都にのくに
	3位	熊本県 JAやつしろ
TAC表彰	1位	島根県 JAいわみ中央
	2位	沖縄県 JAおきなわ
	3位	熊本県 JAやつしろ

【新規開拓部門】 JAの新たなアンテナづくりに取り組んだJAとJA

JA表彰	1位	青森県 JAつがる弘前
	2位	青森県 JAつがる弘前
	3位	青森県 JAつがる弘前
TAC表彰	1位	青森県 JAつがる弘前
	2位	兵庫県 JA兵庫六甲
	3位	長崎県 JA島原雲仙

【農業経営相談部門】 農業経営の相談の相談相手、パートナーとして活動したJAと、JA

JA表彰	1位	滋賀県 JAこうか
	2位	熊本県 JAやつしろ
	3位	群馬県 JAはるくみ
TAC表彰	1位	滋賀県 JAこうか
	2位	熊本県 JAやつしろ
	3位	熊本県 JAやつしろ

【活動実証部門】 担い手の「声」に応えるJAの活動により実績を挙げたJA

JA表彰	1位	兵庫県 JA兵庫西
	2位	山形県 JA山形おきたま
	3位	岡山県 JA勝英
TAC表彰	1位	兵庫県 JA兵庫西
	2位	兵庫県 JA兵庫南
	3位	山形県 JA山形おきたま

【知恵箱情報部門】 TACに役立つ情報をJAのシステム「知恵箱」へ提供した方

購買部門	1位	JA全農 本所 肥料農薬部
	2位	JA全農 新潟県本部 担い手支援部
	3位	JA全農 鳥取県本部 営農資材部
販売部門	1位	兵庫県 JA兵庫西
	2位	山形県 JA山形おきたま
	3位	岡山県 JA勝英

TACパワーアップ大会2009活動表彰 受賞者

TACシステムの面談記録件数上位者（TAC、JA）を対象に活動内容を加味して選定しました。

【情報提供部門】 地域農業の担い手に役立つ情報を提供したTAC、JA

JA表彰	1位	青森県 JA青森
	2位	熊本県 JAやつしろ
	3位	福島県 JAふくしま
TAC表彰	1位	青森県 JA青森
	2位	宮城県 JAみやぎ亜理
	3位	滋賀県 JAグリーン近江

【情報収集部門】 JAおきなわ

JA表彰	1位	沖縄県 JAおきなわ
	2位	京都府 JA京都にのくに
	3位	熊本県 JAやつしろ
TAC表彰	1位	沖縄県 JAおきなわ
	2位	熊本県 JAやつしろ
	3位	熊本県 JAやつしろ

【新規開拓部門】 JAの新たなアンテナづくりに取り組んだJAとJA

JA表彰	1位	青森県 JAつがる弘前
	2位	兵庫県 JA兵庫六甲
	3位	長崎県 JA島原雲仙
TAC表彰	1位	青森県 JAつがる弘前
	2位	青森県 JAつがる弘前
	3位	青森県 JAつがる弘前

【農業経営相談部門】 農業経営の相談の相談相手、パートナーとして活動したJAと、JA

JA表彰	1位	滋賀県 JAこうか
	2位	熊本県 JAやつしろ
	3位	群馬県 JAはるくみ
TAC表彰	1位	滋賀県 JAこうか
	2位	熊本県 JAやつしろ
	3位	熊本県 JAやつしろ

【活動実証部門】 担い手の「声」に応えるJAの活動により実績を挙げたJA

JA表彰	1位	兵庫県 JA兵庫西
	2位	山形県 JA山形おきたま
	3位	岡山県 JA勝英
TAC表彰	1位	兵庫県 JA兵庫西
	2位	兵庫県 JA兵庫南
	3位	山形県 JA山形おきたま

【知恵箱情報部門】 TACに役立つ情報をJAのシステム「知恵箱」へ提供した方

購買部門	1位	JA全農 本所 肥料農薬部
	2位	JA全農 新潟県本部 担い手支援部
	3位	JA全農 鳥取県本部 営農資材部
販売部門	1位	兵庫県 JA兵庫西
	2位	山形県 JA山形おきたま
	3位	岡山県 JA勝英

TAC設置・活動基準＜抜粋＞

設置目的	○恒常的な出向く活動を通じて、要望に応じた情報提供や個別課題の解決に努め、担い手の満足度向上や信頼関係を深めながら事業を拡大する ○担い手の意見・要望を共有化してJAグループの事業改善に反映する
訪問対象	○地域農業の中核となる農業経営体および新規就農者
機構	○常勤役員または部長直轄で本店に集中配置（支店やセンターに分散配置しない）
要員	○TAC1人で最大50経営体を担当する ○農業経営者の意見・要望等を正確に聴取・記録し、誠実な対応を継続できる人材
システム活用	○「TACシステム」を活用し、プロセス管理の徹底、活動内容や情報の蓄積・共有化、運営や目標管理の効率化を図る
活動基準	○ 5～10件／日×16日以上／月
TACミーティング	○週一回会議：常勤役員、関連部署、連合会TAC、連合会事業担当者が参加し活動報告・分析、聴取した情報への対応策を検討する

トップ座談会

活動表彰で受賞された14JAの役員・管理者が、各JAでの取組事例をベースに「TACの成功のポイント」と「TACを通した事業結集の取り組み」について提言しました。「TACの動きを活発にしてやり、また動けるような状況を作ってやるのが役員の役目」との意見が多数、出ました。

「TACの成功のポイント～この1年間で取り組んだこと～」

- ◆「農家への回答は2日以内に出す」ということで、関連部門に対して管理者が依頼することを徹底した。
- ◆JAを利用していない農家と、JAをあまり利用していない農家の「仲介役」をTACが担っていきたい。
- ◆TACが担当している担い手はJA事業の40%を占めている。その担い手層に対応していくことがいかに重要なのかを、JA内部に説明して認識してもらった。
- ◆あくまで「農家とJAの関係を再構築する」というスタンスを崩さない。農家の全ての窓口の対応を行なう。経済渉外は別に配置。
- ◆やる気のある職員と、人材育成研修の充実。営農指導員、銀行業務検定等の資格取得。
- ◆TAC自身が目標をもって取り組む。
- ◆テーマごとにチームを組んで取り組む。例えば「誰と誰は契約野菜。誰と誰は集落営農」。進捗は絶えずリーダーがチェック。ベテランとやる気のある若手のコンビ、「相棒」。
- ◆信用部門、共済部門との勉強会。
- ◆女性のTACの配置・増員。女性の声を反映して、JAの信頼度を高めていく。
- ◆TACの評価基準に4つの大項目（訪問活動、新規取組、購買事業、販売事業）を設定して年間目標を策定している。
- ◆年に1回の大会を行ない、1年間の自分の仕事を披露。組合長以下役員も入り、その内容で優勝者を決定。「家の光大会」など、組合員の寄り合いで事例発表。
- ◆部長、課長、所長、営農経済センター長との同行訪問。TACの活動を見せること、内部の認知度向上。JA全体で育てていく。
- ◆常勤役員全員にTACとの情報交換の場が必要。
- ◆TACを上位管理者への登竜門として位置付けたい。

「TACを通した事業結集の取り組み」

- ◆標高差を利用した、野菜のリレー出荷を企画。
- ◆新規就農者対策。講習会の実施。今までJAと縁のなかった方たちとのつながり。
- ◆新たな販売戦略に基づいた栽培提案。最終的には農家所得を いかに上げるか。
- ◆TAC自身の企画・新しい発想を奨励。例えば「担い手対応米」。JAに一旦出荷し、それを担い手個々の得意先に販売する。6000袋の実績。
- ◆生産者の作れなくなった農地を、TACがどのように導くかを検討。
- ◆TACと金融部門の連携強化。「担い手支援融資」の検討を行なう。
- ◆契約野菜の拡大提案。
- ◆TACを中心とした生産物等の販路拡大、および販売対策の取り組み（生産現場と消費者を直接つなげる「要」とした活動）。
- ◆若い農業者の意見交換・交流活動の設定により、活性化を図る。
- ◆労働力の支援を求める農家に対し、労働者を派遣する農作業支援を実施。JA版「労働力補完システム」を構築したい。
- ◆農家の後継者の花嫁対策についての取り組みの要望がある。
- ◆「営業開発課」を新たに設置。TACと連携大型農家の販売要望に応えていく。「販売戦略部」を新たに設置。市場以外のルート開拓。TACの情報を取りながら出口である販売をどうするか。農家の方の所得に変える。

表彰JA取組事例発表（要旨）

情報提供部門

宮城県 JAみやぎ亜理
営農推進部 営農資材課
佐藤 将哉

非常に高い担い手で、集落においてはリーダー的存在でもあります。

内容はIPM防除を取り入れた防除体系プログラムの提案です。

初めに病害虫が発生しないような環境整備をするよう、圃場（ほじょう）周辺の除草や小麦の収穫後、早期の被覆状況の確認をお願いしました。次に、病害虫発生予察や早期の被覆状況の確認を依頼しました。加えて、誘殺粘着板や虫眼鏡の使用の提案をお願いし